

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アルカソニア			
○保護者評価実施期間	令和 7 年 2 月 14 日		～	令和 7 年 2 月 20 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	令和 7 年 2 月 17 日		～	令和 7 年 2 月 20 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 3 月 10 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団と個の違い、適応行動の認知力向上の支援をしていること	個の活動時の思考や言動に関する声掛けや活動内容と、集団で実施する際の声掛けや活動内容を明らかに分けたり、流れて分けたりと、児童たちが言われて認知するのではなく、自ら活動内容や周囲の状況を見て、認知・切り替えていけるように関わっている。	個の活動時の思考力や創造力・判断力が苦手意識、不安を感じている児童もいるため、集団での活動の様子からであったり、個の活動時の言動に、自己肯定が向上する支援を取り入れていく。
2	身体的な体力が向上する支援をしていること	① 体育館活動や屋外活動では、まず「走る」ことを必ず取り入れており、活動内容にも多様な鬼ごっこも含めている。 ② 「走る」ことを目的とするのではなく、何かをするために走る別の目標立てを児童に伝え、児童が結果的に「走る」ことをしているようにしている。	① 「走る」ことが苦手な児童もいるため、得意な児童との差を、「速さ」ではないルールで埋められるようにしていく。 ② 【もっと】速く、【もっと】長く距離を走りたい、という意欲が出てくる活動内容の検討
3	児童同士の仲が良く、皆でやろう！という雰囲気为先輩児童から後輩児童に伝え、児童たちが自ら作っていること	様々な学年の子どもたちが一緒に活動する中で、先輩児童に言動をお願いすることで、先輩児童の行動を後輩児童に見せ、後輩が先輩を真似ていき、適応行動を認知・実行していけるように、声掛けの焦点を先輩児童に優先して実施している。	先輩児童が困っている後輩児童に、声掛けや自然とやり方等も伝えていけるような雰囲気や職員の声掛けを検討していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「今のままでいい」といった思考の児童や保護者との支援内容の相違や方法の擦り合わせが課題である。	事業所を利用する所以の認知が、「(数年前、数ヶ月前より変わったから)今のままでいい」という思考の児童や保護者に、今後の児童の可能性を伝えられていないことが要因と考えている。	① 当事業所の利用を検討している見学や相談に来所された際に、保護者が考えている児童の将来像を、ライフステージ毎で確認をする。 ② 児童が年度末等の一定期間を迎えた際の目標を保護者や児童、それぞれに確認する。
2	男子児童の割合が高過ぎること。	活動内容が、集団活動に寄っていたり、身体を動かすことを主としている事が多いのが、大きな要因と考えている。	集団活動への入り方(ペースや内容)、身体を動かす活動時の身体的・筋力的・体力等の差を考慮しながら、時には個の活動にも重きをおいた活動や声掛け等を検討していく。
3	【アルカソニア】という特別な場所になってしまっていること。	当事業所では、正しくない言動には厳しく関わることもあるため、児童たちもココではやっちゃいけないこと、という認識をさせてしまっている、と考える。(他所では厳しく言われないため、やっても良いと捉えている節がある)	① アルカソニアで出来ていることは、他(家、学校、他事業所、外出先)でもやった方が良いことを伝えていく。 ② アルカソニアで厳しく伝えている理由を、今まで以上に児童へ伝えていく。